

ThreeBond



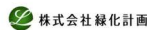
ALL JAPAN
SUPER FORMULA
Championship 2026

RACE REPORT



Round.9-10

FUJI SPEEDWAY

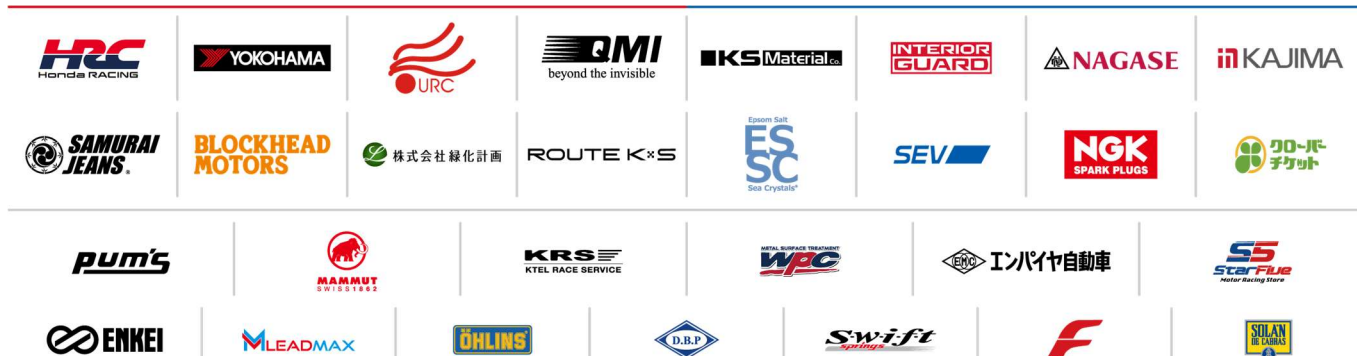




上位へ！秋晴れの富士大会

全日本スーパーフォーミュラ選手権今季7大会目となる第9戦・第10戦が、10月9日(金)～11日(日)に富士スピードウェイで開催された。今回は金曜日にフリー走行、土曜日に第9戦公式予選及び決勝、日曜日に第10戦公式予選及び決勝と、1大会2レース制での大会である。

ThreeBond Racingは7月に同じ富士スピードウェイで開催されたシリーズ第6戦で5位入賞を果たしているが、更に上の順位を目指し、新しい方向性のセッティングをマシンに施して、大会へと挑んだ。





金曜日 フリー走行

レースに先駆け9日(金)に行われたフリー走行を走り出した小出選手だったが、新しい方向性のマシンセッティングとコースコンディションの摺り合わせに時間がかかり、午前のセッションは出走23台中19番手と伸び悩んだ。チームは午後の走行までの間にマシンに微調整を施し、その結果、午後のセッションでは狙い通りのパフォーマンスを発揮し、タイムは出走23台中10番手でフリー走行を終了した。



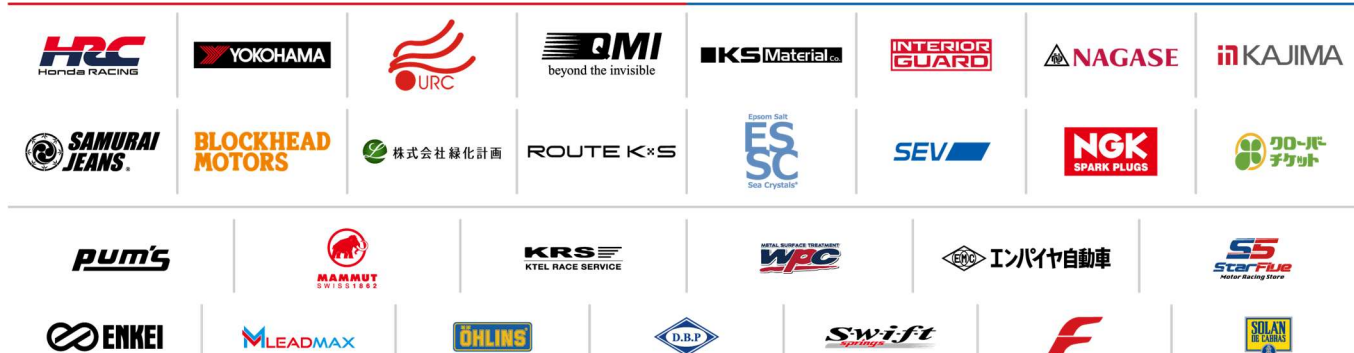
Round.9 公式予選

第9戦公式予選と決勝レースが行われる10日(土)は秋晴れとなった。小出選手は午前9時55分からの公式予選Q1B組に出走。ギリギリまでタイヤを暖め、出走した12台のマシンの中で11番目にタイムアタックを開始。ミスなく1周をまとめ1分22秒207のタイムを記録して、予選Q1を2番手のタイムで通過した。

続く予選Q2では1分22秒170とQ1を上回るタイムを記録するも、他選手に対してはタイムの伸びが足りず、出走12台中9番手で予選を終了した。



Pos	No	氏名/予選 Q2 タイム
1	65	イゴール・オオムラ・フラガ / 1' 21.714
2	6	太田 格之進 / 1' 21.911
3	50	野村 勇斗 / 1' 21.995
9	12	小出 峻 / 1' 22.170





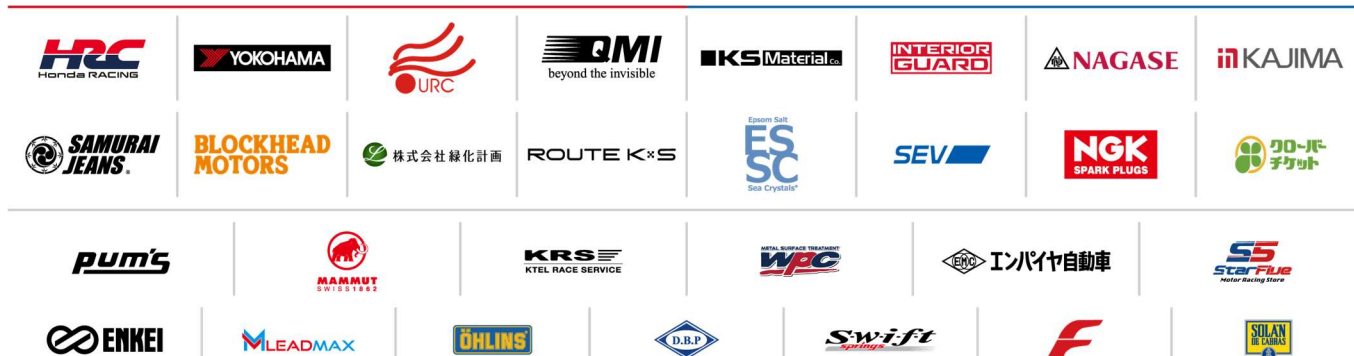
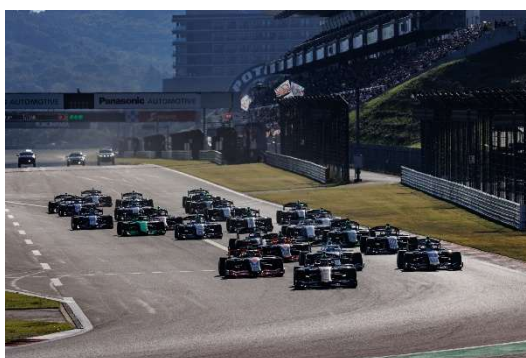
Round.9 決勝

午後3時、周回数41周の第9戦決勝レースがスタート。9番手からスタートした小出選手は、スタート合図の瞬間僅かに出遅れホームストレートと第1コーナーで他車からプレッシャーを受けて外側へと押しやられる形となり、17番手まで順位を下げる事となった。2周目には他車との競り合いの中で更に18番手へと後退し、3周目に入った小出選手は追い上げを図るべく、ホームストレートで前を走る小林可夢偉選手の背後につけて、外側からオーバーテイクに入った。

しかし、第1コーナーを立ち上がる際に小出選手の右フロントタイヤと小林選手の左リアタイヤが接触し、パンクしてしまった。

小出選手はレース後のコメントで、「外側からブレーキングで横に並んだのですが、コーナーを立ち上がるところで可夢偉さんが少し前でした。(走行ラインを)残してくれるかなと思いましたが、タイヤが触れる形となり、パンクしてしまいました。どちらが悪いということではなく、かなり難しい状況でした。むしろ、そこに至るまでの(スタートからの)流れが悪すぎました」と語っている。

パンクにより、低速走行を余儀なくされた小出選手だったが、なんとかピットへとたどり着き、チームはタイヤ4輪全てを交換。小出選手をコースへと送り返したが、順位は最後尾となってしまった。10位以内に与えられる選手権ポイントの獲得は絶望的な状況ではあったが、翌日もほぼ同じ状況で決勝レースを迎えることから、タイヤ交換後もレースペースを他車と比較しながら走行を重ね、最終的にはトップから2周遅れの23位でフィニッシュ、レースを終えた。



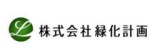
ThreeBond

Round.10 公式予選

日曜日富士スピードウェイは快晴となった。午前10時15分からの公式予選Q1B組に出走した小出選手は1分23秒325を記録。出走12台中6番手で公式予選Q2へと進出した。

しかし、続く公式予選Q2では小出選手のタイムは伸びず、1分23秒422の出走12番手で走行を終えた。走行後に上位の1台が予選タイム抹消のペナルティを受けたため、最終的に予選結果は11位となった。小出選手は予選後のコメントで「今日は、昨日からコースのコンディションが変わり、対応が必要な状況でした。今の12号車はセッティングのスイートスポットが狭く、今回状況の変化にセッティング変更が上手くはならず、昨日よりもタイムが出にくい状態でした。ギリギリで予選Q1を通過できたものの、Q2では最下位の12番手に終わり、残念な結果となってしまいました」とコメントしている。

Pos	No	氏名/予選 Q2 タイム
1	14	イゴール・オオムラ・フラガ / 1' 22.266
2	1	岩佐 歩夢 / 1' 22.395
3	5	ザック・オサリバン / 1' 22.505
11	12	小出 峻 / 1' 23.422





Round.10 決勝

午後3時、土曜日と同じく41周の第10戦決勝がスタートした。小出選手は11番グリッドから上手く加速し、ストレート上で2台をかわし、第1コーナー立ち上がりで更に2台を追い抜くことに成功。7番手までポジションを上げて1周目を終えた。

その後、野村選手と大湯選手の接触により、野村選手の車両が停止してしまい、5周目から9周目までセーフティーカー（SC）が介入することとなった。レースが再開された後はチーム毎に戦略が分かれ、ルール上タイヤ交換が可能となる11周目以降、ピットインする車両が出始めた。小出選手とチームはタイヤ交換を引き延ばす戦略を選び、ピットインを遅らせて走行を続けた小出選手の見かけ上の順位は、16周目には6番手、17周目には5番手、19周目に3番手、20周目には1位へと上がった。

1位を走行するタイミングで、太田選手とイゴール選手のマシンが接触し、再度SCが介入。全車両の速度がSCにより規制される中で、小出選手はタイヤ交換のため21周を終える段階でピットへ。低速走行を強いられているピットイン済みの上位車両に対し一気に事実上の順位を上げられる状況だった。

しかし、問題無くタイヤ交換を終えて、コースへと復帰しようとピットロードを走り始めた小出選手の前で、作業を終えてピットから出てこようとした福住選手のマシンと、作業エリアへ入ろうとしていたルーク選手のマシンが交錯。ブレーキを踏んだルーク選手のマシンに小出選手が追突する形となり、更に後方からも別の車両から追突されてしまった。前後共にマシンが大きく破損し走行不能な状態となったことから、そのままレースを終えることになってしまった。

「（見かけ上）先頭になり、その位置で頑張ってたimeを稼ぎました。絶妙なタイミングでSCが入ったことで、非常に良い流れの中でピットに入りました。これは上位を狙えると思っていましたが、残念ながらあのようなことになってしまいました」と悔しさを噛みしめながら小出選手はコメントしている。

一気に天国から地獄へ。劇的なレース展開だったものの、今季初めて表彰台が目の前に見えたレースだった。

次戦は11月。三重県の鈴鹿サーキットで、シリーズ最終大会となる第11戦・第12戦を、ThreeBond Racingは、ドライバーランキング15番手、チームランキング10番手で迎える。





ドライバー:小出峻 コメント

予選で上位につけるという課題を克服するために、金曜日のフリー走行では新しいことを様々試していました。午前中はなかなか全体としてまとまらず、午後になって良い方向にまとまってきて、まずまずの順位で金曜日を終えることができました。

第9戦の予選Q1は上手くいったのですが、その調子を予選Q2に繋げられなかったのが悔しいです。第9戦の決勝スタートでは、発進直後にエンジンの回転数が思ったよりも下がってしまい、加速が鈍ってしまいました。その後は他車との位置取りで抜かれていく流れになってしまって、防戦一方になり順位を下げてしまいました。悪い流れを断ち切るためにも、攻めていかなければと思ったのですが、3周目で他車と接触してしまい、緊急ピットインとなってしまいました。

悔しいですが、そもそもスタートで順位を下げてしまったことが問題だったと考えています。

第10戦も予選はQ2に進出することが出来、このところQ1突破が当たり前のようにはなりつつありますが、自分としてはまだまだ満足できる状態ではないと考えています。決勝のスタートは、前日の反省を受けて入念に準備を行い、かなり良いスタートとなりました。その後のレース戦略はタイヤ交換をレース後半に引っ張る方向で、他車がピットインし前方が空いた状況で走りタイムを稼ぎました。見かけ上順位が先頭になるまで流れが良かっただけに、あのような終わり方をして、非常に悔しい思いです。ただ、これがレースでもあり、仕方ないとも考えていますし、次に繋がるレースだったと思います。ここまでのシーズンを振り返ると、状況は確実に良くなっていて、あとは散らばっているパズルのピースを上手くはめ込むだけという手応えがあります。最終戦の鈴鹿大会に向けて、気持ちを切り替えていきます。



監督:塚越広大 コメント

7月の富士大会で感じた課題をエンジニアとドライバーで話し合い、金曜日のフリー走行で現在の課題に効くであろうセッティングを様々試して、良い方向にまとめることが出来ました。おかげで、特に第9戦予選Q1は良い結果になりましたが、Q2への合わせ込みや決勝についてはまだ足りていない部分が出てしまったと思います。

第10戦のレースに関しては、非常に良いスタートを切り、レース中盤も走行ペースを落とすことなく耐えてくれました。チームとしてもライバルがタイヤ交換に続々と動く中で判断が難しかったのですが、我慢して耐えると抜群のタイミングでSCが介入し、大きなチャンスとなりました。ただ、残念ながらピットロードでの混乱に巻き込まれてしまい、上位に行くチャンスだっただけに、非常に悔しいレースになってしまいました。

ここまでのシーズンを振り返ると、着実に積み上げているものがありますが、もちろんまだ足りない部分もあり、チーム全員が更にレベルを上げなければいけないと考えています。険しい道だと思いますが、上位を狙える力を身につけつつあると思うので、全員を信じて最終戦で表彰台をしっかりと獲りに行きます。前回の鈴鹿大会では、まずまずのパフォーマンスを発揮しているので、これまで培ってきた力と合わせて、良い結果が出せると信じています。



トラックエンジニア:大駅俊臣 コメント

今週末は思うように進めることができ、2レースとも予選Q1を通過できたのは手応えがありました。新しいことを少しずつ試して、良い結果に繋がりはじめたなという印象です。

まだまだ途中ではありますが、良いところ、悪いところがそれぞれ見えてきて、マシンとして現在の方向で煮詰めても良いかなと考えています。

もはや予選Q2に進出するのは当たり前で、上位争いの中で走らないといけない段階に来たと考えています。鈴鹿でも新しいこと試し、着実に前へと進んで行きます。





Round.9 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	65	イゴール・オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING	58' 55.883
2	6	太田 格之進	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	58' 59.998
3	19	ザック・オサリバン	TEAM IMPUL	59' 00.268
4	1	岩佐 歩夢	TEAM MUGEN AUTOBACS	59' 10.889
5	36	坪井 翔	VANTELIN TEAM TOM'S	59' 13.564
6	14	福住 仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE	59' 17.063
7	39	大湯 都史樹	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	59' 27.005
8	28	小林 利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC	59' 28.103
9	7	小林 可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC	59' 31.107
10	64	佐藤 蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	59' 31.705
11	5	牧野 任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	59' 38.988
12	8	山下 健太	KCMG	59' 40.870
13	37	サッシャ・フェネストラズ	VANTELIN TEAM TOM'S	59' 41.482
14	3	ルーク・ブラウニング	REALIZE KONDO RACING	59' 42.348
15	16	野尻 智紀	TEAM MUGEN AUTOBACS	59' 48.322
16	9	ジュリアーノ・アレジ	KCMG	59' 48.824
17	97	ロマン・スタネック	ナビクル Buzz MK RACING	59' 50.339
18	53	チャーリー・ブルツ	TEAM GOH	59' 51.200
19	22	松下 信治	DELIGHTWORKS RACING	59' 52.717
20	4	笹原 右京	REALIZE KONDO RACING	59' 57.859
21	38	ト部 和久	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	59' 57.894
22	10	ジュジュ	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	1:00' 05.404
23	12	小出 峻	ThreeBond Racing	1:00' 09.012
-	50	野村 勇斗	San-Ei Gen with B-Max	DNF





Round.10 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	1	岩佐 歩夢	TEAM MUGEN AUTOBACS	1:13' 53.821
2	19	ザック・オサリバン	TEAM IMPUL	1:13' 55.168
3	22	松下 信治	DELIGHTWORKS RACING	1:13' 55.597
4	39	大湯 都史樹	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1:13' 58.257
5	37	サッシャ・フェネストラズ	VANTELIN TEAM TOM'S	1:13' 59.781
6	5	牧野 任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:14' 03.018
7	16	野尻 智紀	TEAM MUGEN AUTOBACS	1:14' 03.523
8	53	チャーリー・ブルツ	TEAM GOH	1:14' 04.501
9	9	ジュリアーノ・アレジ	KCMG	1:14' 05.664
10	97	ロマン・スタネック	ナビクル Buzz MK RACING	1:14' 08.723
11	14	福住 仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE	1:14' 37.015
12	64	佐藤 蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	1:14' 42.849
13	10	ジュジュ	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	1:14' 43.370
14	7	小林 可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC	1:15' 02.935
15	65	イゴール・オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING	1Lap 遅れ
16	38	ト部 和久	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1Lap 遅れ扱い
-	8	山下 健太	KCMG	DNF
-	36	坪井 翔	VANTELIN TEAM TOM'S	DNF
-	28	小林 利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC	DNF
-	12	小出 峻	ThreeBond Racing	DNF
-	3	ルーク・ブラウニング	REALIZE KONDO RACING	DNF
-	6	太田 格之進	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	DNF
-	4	笹原 右京	REALIZE KONDO RACING	DNF
-	50	野村 勇斗	San-Ei Gen with B-Max	DNF





Drivers & Team Ranking

順位	ドライバー	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			もてぎ	もてぎ	AP&富士	鈴鹿	鈴鹿	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	太田 格之進	122	2+10	3+20	2+2	4	11	20	1+20	2+8	2+15	0		
2	岩佐 歩夢	89.5	3+7.5	1+3	3+0	3+0	2+15	1	6	15	8	2+20		
3	イゴール・オオムラ・フラガ	77	4	0	12	0	3	5	15	1+11	3+20	3+0		
4	福住 仁嶺	63	0	11	0	1	3+20	0	3	20	5	0		
5	ザック・オサリバン	54	0	5	0	2	0	3+15	0	2	11	1+15		
6	牧野 任祐	46	0	0	6	0	1+5	11	2+11	5	0	5		
7	坪井 翔	43	1	0	7	11	6	0	8	4	6	0		
8	大湯 都史樹	43	0	2+6	4	5	0	2+8	4	0	4	8		
9	サツシャ・フェネストラズ	40.5	2.5	0	5	20	4	0	0	3	0	6		
10	野尻 智紀	34.5	1.5	0	1+9	2+0	0	0	3+5	3+6	0	4		
11	松下 信治	27	0	1	0	15	0	0	0	0	0	11		
12	阪口 晴南	27	0	15	0	0	8	4	0	0	-	-		
13	ルーク・ブラウニング	20	0	8	0	8	0	1+3	0	-	0	0		
14	佐藤 蓮	11.5	1+5.5	0	1	0	2	0	0	1	1	0		
15	小出 峻	11	3	2	0	0	0	6	0	0	0	0		
16	チャーリー・ブルツ	9	0	0	0	6	0	0	0	0	0	3		
17	小林 利徳斗	6	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0		
18	野村 勇斗	6	2	0	0	1+0	0	2	0	-	1+0	0		
19	山下 健太	5	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0		
20	小林 可夢偉	5	0	0	0	0	1	0	2	0	2	0		
21	ロマン・スタネック	4.5	0.5	0	0	3	0	0	0	0	0	1		
22	ジュリアーノ・アレジ	2	-	-	-	-	-	0	0	0	0	2		
-	笹原 右京	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
-	野中 誠太	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-		
-	ジュジュ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
-	ト部 和久	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0		





Team Ranking

順位	チーム	合計	Rd.1 もてぎ	Rd.2 もてぎ	Rd.3 AP&富士	Rd.4 鈴鹿	Rd.5 鈴鹿	Rd.6 富士	Rd.7 富士	Rd.8 SUGO	Rd.9 富士	Rd.10 富士	Rd.11 鈴鹿	Rd.12 鈴鹿
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	153	0+10	0+20	6+2	0+4	5+11	11+20	11+20	5+8	0+15	5+0		
2	TEAM MUGEN AUTOBACS	101	7.5+1.5	3+0	0+9	0+0	15+0	1+0	6+5	15+6	8+0	20+4		
3	VANTELIN TEAM TOM'S	83.5	1+2.5	0+0	7+5	11+20	6+4	0+0	8+0	4+3	6+0	0+6		
4	PONOS NAKAJIMA RACING	80.5	5.5+4	0+0	1+12	0+0	2+3	0+5	0+15	1+11	1+20	0+0		
5	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	66	0+0	15+6	0+4	0+5	8+0	4+8	0+4	0+0	0+4	0+8		
6	NTT docomo Business ROOKIE	60	0	11	0	1	20	0	3	20	5	0		
7	TEAM IMPUL	50	0	5	0	2	0	15	0	2	11	15		
8	DELIGHTWORKS RACING	27	0	1	0	15	0	0	0	0	-	11		
9	REALIZE KONDO RACING	19	0+0	8+0	0+0	8+0	0+0	3+0	0+0	0+0	0+0	0+0		
10	ThreeBond Racing	11	3	2	0	0	0	6	0	0	0	0		
11	KDDI TGMGP TGR-DC	11	0+0	0+0	0+3	0+0	1+0	0+0	2+0	0+0	2+3	0+0		
12	TEAM GOH	9	0	0	0	6	0	0	0	0	0	3		
13	KCMG	7	0+0	4+0	0+0	0+0	0+0	0+0	1+0	0+0	0+0	0+2		
14	ナビクル Buzz MK RACING	4.5	0.5	0	0	3	0	0	0	0	0	1		
15	San-Ei Gen with B-Max	4	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0		
-	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

